

平成22年度第5回（第17回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成23年1月17日（月） 10時～12時

2 場 所 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

3 出席者

- (1) 委員 19人
欠席5人：安達委員、木村委員、今井委員、水谷委員、高橋委員
- (2) 事務局 古舘主幹、加茂主査、山崎主査補、安井主査補、松木主任主事
- (3) 傍聴者 25人

4 議題

- (1) 小学校の統合の組合せについて
- (2) 小学校の統合時期について
- (3) 小学校の統合場所について
- (4) 次回開催日時・場所について

5 会議資料

- (1) 次第と席次表
- (2) 平成22年度第5回「協議会」資料
- (3) 資料4 磯辺地区の通学距離シミュレーション<前回資料>
- (4) 資料5 磯辺地区の小・中学校の校舎等の状況<前回資料>
- (5) 前回議事要旨

6 会議の概要

- (1) 委員の交代について
磯辺第二小の委員の交代について事務局から報告。
- (2) 小学校の統合の組合せについて
磯辺第一・第二・第四小の3校同時統合となった。
- (3) 小学校の統合時期について
平成25年4月となった。
- (4) 小学校の統合場所について
次回継続審議となった。
- (5) 次回開催日時・場所について
次回は平成23年3月7日（月）午前10時から12時まで、磯辺地域ルームで開催することとした。

7 発言要旨

(1) 委員の交代について

<事務局>

磯辺二小代表の委員として、これまで父母と先生の会の大和田晴美会長から推薦された、磯辺二小適正配置委員である磯田康子様が出席されていたが、今後は会長自身が出席することにしたと申し出があった。このことから、磯辺二小父母と先生の会からの委員を大和田晴美会長に変更してよろしいか。（承認）

(2) 会長挨拶

<吉岡会長>

あけましておめでとうございます。本協議会も17回目になるが、そろそろ結論に導いていただけるとありがたいと思う。学ぶほうの子どもに早く良い環境を作ってあげるのが我々の責任でもあるので、急ぐというわけではないが、そういう考え方で進めていただけるとありがたい。よろしく願います。

(3) 協議

議題1 小学校の統合の組合せについて

<鳥越議長>

前回協議で、シミュレーション4（磯辺一小・二小・四小の統合）を小学校統合の組み合わせとすることについて、磯辺二小を除き同意を得た。磯辺二小については、一小と四小の統合後の大規模改修終了時あるいは様子を見ながら統合校に合併するか、単独で残るかをもち帰って話し合い、結果を本協議会で報告することになっていた。

まず事務局に資料の説明をお願いします。

<事務局>

○平成22年度第5回「協議会」資料のうち、「1 学区図」「2 小学校の統合シミュレーション」「3 3校統合の進め方について」を説明。

<鳥越議長>

この件について、ご質問はあるか。

<村上委員>

文科省が23年度予算で1年生は35人学級編制とした。それが実施された場合のことは考慮されているのか。

<事務局>

1ページの資料は35人学級編制を前提とした資料ではないが、磯辺地区では仮に35人学級編制が実施されてもほとんど影響は無い。

<鳥越議長>

磯辺二小の父母と先生の会からの報告をお願いします。

<大和田委員>

前回、二小代表が持ち帰った話を聞いて、パターン1と2について、冬休み前に一度アンケートをとった。その後、1月8日に説明会をして意見をまとめたところ、「一小・四小の統合校に後から加わるということは子どもの心理学上、最初に一小・四小が仲良くなったところに加わるストレスがかかり、良くないのではないか」という意見に共感が得られ、3校同時統合がスムーズではないかということから「3校同時統合を希望する」という結論になった。

<村上委員>

そのほかに二小では統合について、どういった意見や希望が出たか伺いたい。

<大和田委員>

小学校の統合は昨年の段階で決まっていたので、あとはどういうパターンで進めるかということで、シミュレーションを見たときに、将来のことを考えると磯辺二小を単独で残すのは危険ではないか、いざ統合校に加わりたいというときに話が風化して統合できなくなることが一番危険ではないかということで、同時統合という結論になった。

<鳥越議長>

ご意見、ご質問はあるか。(なし)

小学校の統合の組み合わせについては、磯辺一小・二小・四小を同時に統合することで話がまとまった。仮に中学校の統合が遅れた場合には、統合小学校は磯辺一中区になるということではよろしいか、事務局に確認したい。

<事務局>

磯辺一小的学区が磯辺一中区と磯辺二中区に分かれており、ねじれが生じている現状を解消したい、というのが第一次、平成16年からの課題であった。中学校を統合した場合、磯辺地区は統合中学校1つの学区になる。ねじれ解消の一つの方策は中学校の統合である。

今回、小学校の3校統合ということになった。中学校の統合が小学校統合と大きな時間差がなく実施されればそれで済むが、仮に中学校の統合が遅れた場合に統合小学校の中学校の学区を一中の学区にすることになる。

この場合、学区の弾力的運用が適用される。この運用の原則は、在校生については現在通っている学校に通って構わない、というものである。具体的には、一小を卒業して二中に通学している生徒を含めて学区変更時に一中に移すのではなく、在校生はそのまま二中に通うことが出来るが、新入生からは一中に行くというものである。しかし、これまでの統合事例では、もう少し緩やかな運用をしているものがある。例えば、幸町地区は、当地区と同様に小学校3校（幸町一・二・四小）統合の話が進んでいるが、幸町一小・四小が幸町一中に通っており、幸町二小が幸町二中に通っている。今回、小学校3校を統合することになり、その際には中学校区は幸町一中にすることとなったが、幸町二小から統合に際しての条件が出され、統合時の幸町二小在学学生については幸町二中に通うことも許可するという弾力的運用を図ることで3校統合が承認された。磯辺一小と幸町二小の違う点は、幸町二小は学校全体が幸町二中学区である点である。このような弾力的運用については、代表協議会で議論のうえ、決定していただきたい。今すぐ議論する必要は無いが、追々意思決定していただきたい。

議題2 小学校の統合時期について

<鳥越議長>

まず、磯辺一小と四小の統合時期について協議する。

初めに、事務局に関連する資料の説明をお願いします。

<事務局>

○平成22年度第5回「協議会」資料のうち、「4 統合時期の考え方について」を説明。

<鳥越議長>

資料を参考に統合時期を協議したい。

<大浦委員>

質問だが、花島小と真砂地区は要望書提出から1～2か月で準備会が設置されているが、高浜は6か月もかかっている。これには理由があるのか。

<事務局>

高浜では、すぐに準備会を設置せず、保護者学校レベルで交流を始め、正式には9月から統合準備会を設置した。統合準備会は全部で5回程度の開催が必要だが、あまり早く設置すると間延びするということがあった。

<近藤委員>

統合校の開校時期は4月以外に無い、という前提で良いか。それから、耐震等の大規模工事があった場合に1年程度で終わることが出来るということで良いか。

<事務局>

開校は基本的に新年度が始まる4月としたい。大規模改修は改修すべき場所のボリュームにもより、1年から1年半がかかる。

<鳥越議長>

それでは一小から意見をお願いします。

<磯辺第一小学校保護者会代表>

児童数推計では、一小は毎年減少しており、できるだけ早い統合を望んでいるので、25年度開校でお願いしたい。

<大和田委員>

統合するのであれば、できるだけ早くお願いしたい。中学校統合についても関わってくるので、それについても慎重に考えていきたい。無理のない時期にお願いしたい。

<竹内委員>

三小には特に影響は無いが、子どもたちがストレスをあまり感じないように配慮した統合であってほしいと思っている。

<磯辺第四小学校保護者と教職員の会代表>

できるだけ早い統合を、25年度開校を望んでいる。

<吉田みどり委員>

一中では小学校の統合に関しては意見は無いが、昨年12月にアンケートをとった際に、中学校の統合時期を小学校統合と同時にという意見があったので、小学校が25年4月開校であれば中学校も同じ時期に、早期にお願いしたい。

<橋爪委員>

二中としては、小学校統合については、意見はない。

<鬼塚委員>

特に意見は無いが、参考までに、高浜二小と高浜三小の統合準備を経験して一年半以上は必要というのは全くその通りだと感じている。

<池上委員>

小学校も中学校も同時に統合した方がいいと考える。二中の学区に住んでいるが、二中が開校したときに中3が一中、中1が二に通うということがあった。同時でないと、新入生から一中に通うことになった場合、兄弟姉妹で別の中学校に通うということもあるだろう。

<近藤委員>

早い時期がいいと思っている。

<山崎委員>

統合対象外の地区代表なので、意見は保留する。

<古田委員>

統合時期については、準備期間を考えると、25年4月あたりであろうと思う。

<関委員>

ここまできたら、なるべく早いほうがいいと考える。

<大浦委員>

3校統合なので準備期間を長く取ったほうがいいだろうが、間延びするのもどうかと思うので、25年4月でいいだろう。

<藤岡委員>

なるべく早く、中学も同時がいいだろう。

<村上委員>

小学校統合は3校統合ということもあるので、準備委員会の数を5回よりも多くして準備期間を十分時間を取って、25年4月というのが現実的だろう。中学校の統合については、小中一貫教育の実績が出始めていることに配慮して、小中連携システムを含めた公的教育全体のレベルアップという観点を織り込んだ討議を進めて考えていくべきであろう。

<鳥越議長>

準備期間を十分とって、なるべく早く、25年4月開校というのが全体の意見である。よって、小学校の統合時期については、平成25年4月とする。

<事務局>

平成23年9月頃までに要望書が提出されれば、25年4月開校に間に合う。

<村上委員>

要望書には「統合する」ということだけではなく、統合場所なども含めてまとめるのか。

<事務局>

統合の組み合わせ、場所、時期を決めていただく。また、学区の運用の希望があればそれも含めて、要望書にまとめていただきたい。

<竹内委員>

予算の締め切りは9月末だと思うが、要望書提出は9月になる前までか。

<事務局>

9月前半であれば大丈夫である。

<大和田委員>

小学校の時期を決めていると思うが、「2度の統合を避けるべき」という考えから、小学校統合と中学校統合が同時でない場合には中学校統合が数年後となってしまうので、同時に統合をお願いしたい。

<鳥越議長>

まず、どこを小学校の統合場所とするかを決定して、その後に中学校の議論に入りたいと思う。時間に限りがあるため、今回は中学校の話は出来たとしても入り口程度になると思うが、ご理解いただきたい。

議題3 小学校の統合場所について

<鳥越議長>

次に、小学校の統合場所について協議する。

初めに、事務局に関連する資料の説明をお願いする。

<事務局>

○平成22年度第5回「協議会」資料のうち、「5 統合場所選定の考え方（これまでの例）」を説明。

<石塚副会長>

真砂中学校は敷地面積の広さから一中が選択されたということか。

<事務局>

敷地面積が広いこと、隣りにある真砂二小を活用できるということから選択された。

<竹内委員>

真砂東小には子どもルームがあるのか。

<事務局>

現在の真砂一小と四小にそれぞれ子どもルームがあるので、統合後もそれらは存続する。

<竹内委員>

真砂東小学校の授業が終わったら既存の一小と四小の子どもルームに通うということか。磯辺地区でも子どもルームに関して同じ考えでいいのか。

<事務局>

磯辺地区の各小学校の子どもルームは資料5に記載したとおりの現状であるが、基本的には現在ある子どもルームは継続して使っていく。磯辺三小については従前から子どもルーム設置要望が出ていることは理解している。

<別所委員>

真砂中学校を23年度から二中に仮に越して一中を改修するという事はしないのか。

<事務局>

真砂中学校は、23年4月の開校時には現真砂二中を仮校舎として、その間に現真砂一中を改修する。従って、最終的に現真砂二中が真砂東小学校になるのは、現真砂一中の改修が終了して中学生がいなくなってから小学校として利用するための改修を行うので、しばらく先になる。

<鳥越議長>

資料を参考に統合場所を協議したい。

<村上委員>

今日は小学校の3校統合が基本的に決まった。これをもとに、今度は統合場所について、各学校に持ち帰って話し合ってもらったほうがいいのではないだろうか。

<磯辺第一小学校保護者会代表>

持ち帰っても、各学校は自分たちの学校を残してもらいたいという意見になるだろう。

<別所委員>

各校とも保護者の方は自分の学校に愛着を持っている。保護者会の意見は聞いたうえで、地域代表も含めて協議していくべきだろう。

<竹内委員>

今回は地域の皆さんの意見を伺って、学校代表の皆さんには学校としてはどう考えるということ意見を聴取してきてもらってはどうか。

<鳥越議長>

では地域の代表の皆さんに意見を願います。

<村上委員>

まちづくり研究会の立場から言うと、地域住民が跡施設を使う立場から、四小は地域のための施設として欲しい。四小は耐震補強不必要など、設備が整っているの、使い勝手がいい。改築までして跡施設を利用しようという人は少ないだろうと思う。

<藤岡委員>

私も同じ意見だ。磯辺地区の拠点として跡地利用をするなら、四小が磯辺の中心にあるので、防災や福祉関係などの拠点としてもらいたい。統合校は一小か二小かということにしてもらいたい。

<大浦委員>

学校についての話し合いなので、中心ということであれば四小を統合校にするべきだろう。一小か二小を仮校舎としたときに若干通学距離があるかなというのが少し不安である。

<関委員>

客観的に見て統合小学校は四小であろうと思うが、普通教室として使用できる教室数が少ないことが統合校としてはどうなのかと思う。特別教室と、普通教室として使用できる教室数、保有教室の数が統合によって変わってくるのかどうか、ということが気になる点である。

<古田委員>

資料5を見る限り、四小が設備等から有利かと思う。位置も中心なので通学の点からもいいだろう。ただ、学校に対する愛着は父兄それぞれあるだろうから、それを加味する必要がある。

<山崎委員>

高浜二小・三小の統合では、エゴを言い出したら自分の学校を残したい、ということになるが、子どものことを考えて決めようということになった。通学距離はほぼ同じだったので、学校見学会をしたうえで、環境整備を優先した。校舎から校庭が見える、校舎の日当たりがいい、耐震など、校舎のつくりから見て良いだろうということで、校舎内のつくりとしては多少の意見があったが、三小とした。

<近藤委員>

通学距離を考えて、中心の四小が良いだろう。真砂の例もあるように、隣のグラウンドが使えとか、各学校のメリット・デメリットがあるだろう。通学距離だけではなく、そういった情報も含めて判断すべきだと考える。現地見学も必要ではないだろうか。

<池上委員>

いろんな資料を見たり、見学したりして決めるべきだろう。

<事務局>

関委員の発言にあった、資料5に記載している「保有教室数」と「普通教室として使用できる教室数」についてだが、もともと「保有教室」とはクラスルーム（普通教室）として使える教室数である。当初はその数であったが、児童数の減少に伴って使う普通教室が空いてきたので、学校によってはコンピューター室や保健室に改造しており、現状ではクラスルームとして

使えないところがある、という意味である。ただ、もともとは普通教室だったわけなので、戻そうと思えば元に戻せる。現状の「普通教室として使用できる教室数」で言うならば、一・二・四小とも必要な教室数に足りるので、統合校としての活用が可能である。職員室から校庭を見渡すという点から言うと、磯辺四小は見渡ししやすい校舎の形状になっている。

<橋爪委員>

小学校の場所の問題と関係することなので、発言したい。

小学校の統合校はどこがいいというわけではないが、一・二・四小の枠の中で考えると、どの学校も通学距離は大丈夫なのは分かっているが、磯辺一中が真ん中になる。中学校統合を話す場ではないと分かっているが、磯辺二中としたら、磯辺一中区と現在の（現高浜二小学区も含めた）磯辺二中区の真ん中で考えていただいて、難しいことは分かっているが磯辺一小を統合中学校にすることをお願いしたい。磯辺一小は中学校にするには広さが足りないのは分かっているが、企業庁の土地をグラウンドとして残してもらおうという要望を出してもらうわけにいかないだろうか。

二中は統合が必要ないとは思っていない。統合が必要だとは思っているが、地域の方々に支えられてやってきたわけであり、磯辺だけではなく高洲・高浜の子どもも通っているので、高洲・高浜も含めて話し合わないと反発が起こる。わだかまりなく統合するには、要望を出し、それでも無理であれば納得がいくと思う。

<鳥越議長>

千葉市から企業庁に土地を返すということは平成16年に決定している。それならば、市にその土地を買ってくれ、という要望書を出すということになるだろうが、市の財政状況から、買うという決定は出ないだろう。これらを考えると、磯辺一小の土地を広げることは無理だろう。

<大和田委員>

二小は今までも統合せずに残したいという話を出していたが、25年4月の一・二・四小統合を目指すことが決まった。中学校の統合についても同時にお願いしたい。

<竹内委員>

土地の話だが、磯辺二中は千葉市の土地だろう。その土地と、磯辺一小の隣の土地をトレードオフできないか。企業庁にそんな話は通用しないのだろうが、すがるとすればそういう所だろう。

<大浦委員>

仮にトレードオフが出来るとしても、企業庁がトレードオフした土地をどうするか、開発計画が明確でないと、磯辺二中の周辺住民からの反対が起きるだろう。

<竹内委員>

高浜も含めた現一中区・二中区の学区全体の話として考えると中心は一中と一小になるだろう。土地だけの問題であるなら、「絶対に無理」という論拠を示してもらわないと、高浜地区、二中周辺の方には納得してもらえないのではないかな。

一小と隣の土地を合わせた場所を統合中学校にすることについて、自分の住んでいる地域（コープスクエア稲毛海岸の自治会内）で話してみたところ、大半の皆さんがそのほうがいいと言われている。できるかどうか分からない、企業庁に返すことは決まっている、ということは説明した上で聞いている。1%でも可能性があるなら、そこにこだわりたいという思いはある。

小学校と中学校はつくりが違うことは理解している、プールや体育館の作りかえが必要だろう、その辺りは大規模改修の中で対応できるのではないかな。

<鳥越議長>

他に意見がないようなら、統合場所については継続審議としたい。

<吉田みどり委員>

12月に保護者アンケートを取ったので、結果を報告する。

小中同時統合を希望する保護者が42%。統合中学校の位置について、今ある中学校のどちらかにするか、その理由は、という設問に対し、面積や設備、水はけなどの面から一中がいい

という意見が83%であった。一中を統合小学校にすることについては、74%が反対という結果である。

<事務局>

事実だけ申し上げる。

一小脇の野球場の土地だが、今年度いっぱい企業庁に返還することが決定しており、これについての変更は出来ない。また、市として買い上げる予定はない。

磯辺一小は小学校としては敷地面積が大きい、中学校の理想の敷地面積としてみると狭い。設置することは可能だが、今ある施設を使った方が環境が良いのに、あえて市の予算を投入して狭い中学校を作ることは合理的であるか、市の予算当局を説得する材料が無い限りはもともとある施設を活用する、という方向性になるのが自然であろう。その辺りを踏まえて議論していただけるとありがたい。

<磯辺第一小学校保護者会代表>

一小は、教室数も多く校庭が広い。このことから、統合小は一小にしてもらいたい。

<大和田委員>

1月8日に二小で開催した説明会では、二小は統合小として残って欲しいが、二小が残ると一中が残らないのではないかと、そうすると6・7・8丁目に避難場所が残らないので危ない、という意見が出た。加えて二小が統合小になると、資料の通学距離シミュレーションにもあるように、一小と四小の端からの通学距離が1キロ以上で大変ではないか、やはり歩み寄りも必要だろう、ということで、第一希望は二小だが、四小に設置することが妥当かという話が出た。また、四小は新基準が採用されており、改修が少なくていいこと、統合を急ぐ状況からも四小がいいという話が出ている。

<磯辺第四小学校保護者と教職員の会代表>

四小は人数が少ないので統合小を四小にというのは難しいだろうと考えて、一番広い一小に行くのがベストかという話になっていた。今回多くの皆さんに四小が良いと言っていたので、また持ち帰って検討したい。

<竹内委員>

四小が建った時に、将来的に児童数が減ったら高齢者向け施設になるという話を聞いたが。

<藤岡委員>

市はそういった説明をしたことはないといっているが、噂には出ていた。

<村上委員>

書類上は、四小を高齢者向け施設にするという話は残っていない。

<鳥越議長>

本日の協議会で、小学校の統合について、次の3点が合意された。

①統合の組み合わせ：三校同時

②統合の時期：平成25年4月

③統合の場所：継続審議とし、各委員は所属団体へ流して意見を取りまとめてくる。

委員の皆様は、このことを所属団体に伝えていただきたい。次回は小学校統合場所と、中学校統合について議論していきたい。

議題4 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

次回の開催日時・場所を決めたい。次回は3月7日、月曜日の午前10時から12時まで、会場は磯辺地域ルームとしたいと思うが、いかがか。(異議なし)

他になければ、これで議事をすべて終了する。

(4) 諸連絡

<事務局>

○議事要旨の確認について、今までどおり、案を送るので確認をお願いしたい。

○次回協議会を欠席する場合は、事務局へ電話をお願いしたい。代理を立てる場合は、然るべき立場の方を立て、事務局へ連絡をお願いしたい。

(4) 閉会

<吉岡会長>

長い間の協議、感謝する。最近感じるのは、日本の人は、例えば外国に行って勉強する人がだいぶ減ってきているように思う。学問だけができる人間ではなく、スキルが大きな人材を育てていきたい。そういう大きい人間を育てるには教育が大切だろう。国力とは教育である。今後ともそういった視点で、長い目を見て、人材を育てていくという気持ちで臨んでいただきたい。